多文化共生事業事例集

年度
28

団体名	助成金名：教育支援事業	ジャンル
神戸市教育委員会	事業費総額　2,473 千円	子ども・教育

事業名

外国にルーツを持つ子供の未来共育プロジェクト

特徴

人権研修会の実施、教員を対象とした子どもサポート体制の強化、NPO 等と学校との情報交換会の開催など、様々な切り口から地域と学校を巻き込んだ事業を展開した。

事業のポイント

◇ハンディを負う外国にルーツを持つ子供たちが、自分の力を発揮できる学力を身につけ、進学し、日本社会についての正しい知識を身につけ、自立できる環境づくりを行う。

事業の背景・目的

◇神戸市では貧困世帯への学習支援プログラムは実施され始めているが、多文化な背景を持つ子供や家庭への対応ができる体制は整えられておらず、言語等の問題で十分な対応ができていないのが現状である。日本で今後も定住していく外国にルーツを持つ子供に、本来持っている力を発揮して、地域を支える一員となってもらえるよう、早い段階でのサポートを実施することが、社会にとっても本人にとっても必要で重要なことである。子供へのサポートと併せ、日本語が不自由で、日本の生活になかなか適応できない、雇用等の問題で経済的に不安定等の問題を抱える保護者に対し、専門機関・団体に繋げていけるようなサポート体制の構築も必要であることから、地域で教育支援実績のある NPO（KFC）と連携して実施。

事業の概要

①外国にルーツを持つ子供幼児期支援

○「こうべプレスクール」の実施

就学前の子供を対象に、ひらがな、数字、学校で使用する用語の学習

・実施日：１月７日～2 月 11 日までの（全６回）

②外国にルーツを持つ子供学齢期支援

○「地域学習教室」の実施

小・中学生を対象とした、学習の支援を実施。

実施曜日：火・水・木（新長田教室）、金（三ノ宮教室）

・小学生対象：210 回、学習者数延べ 1896 人、支援者数延べ 1349 人、ルーツ国：ベトナム、中国、フィリピン、ペルー等

・中学生対象：81 回、学習者数延べ 1017 人、支援者数延べ 674 人、ルーツ国：ベトナム、中国、等

③進学及びキャリア形成支援など

○ロールモデル事業　６月２日（木）に「先輩から高校と高校入試について話を聞こう」を開催

○夏休み工作教室　８月 11 日（木）に万華鏡を作成した。

○年末お楽しみ会　大学生が中心となり、12 月 27 日(火)に実施。

○子どもを見守る支援者のための人権研修会

10 月８日に、子供たちがまだ充分に判断するスキルがないために生じる、いじめや差別発言などに遭遇した時に対応する術を、ボランティアが得ることを目的に実施。

○事例発表会

活動歴が比較的浅い、若い支援者５名が事例発表会を行った。高校教員からのコメントと、その他の支援者の方たちとの意見交換を実施し、日ごろの活動を見直す機会、ピアカウンセリングの場を設けた。

○「子供・保護者相談室」の実施

④教員対象研修会・情報交換会

○支援団体との情報交換会　6月9日（金）

○日本語指導基礎講座　8月１6日（水）

「先輩から高校と高校入試について話を聞こう」

年末お楽しみ会

事業実施における工夫点・事業の成果等

「先輩から高校と高校入試について話を聞こう」では、今年高校受験を終え、無事に高校に合格した地域学習教室（KFC）で学習していた生徒たちが後輩である中学生に高校や受験のシステムについて説明してくれた。学校では質問しにくかったり、情報が十分に得られなかったりしたことなどを、話の聞きやすい年齢の近い先輩から個別に聞くことができ、進路選択に必要な情報が提供できたことは、大変意義のある事業だった。

KFC も含めた地域・NPO 外国人児童生徒支援団体と学校との情報交換会では、地域・NPO１３団体２１名、５１学校園６８名の参加を得た。通学する学校園と地域・NPO 団体とが連携し、情報を共有をしていくことは大変重要で有意義な会となった。

また、教員対象の日本語指導基礎講座では、４３名の教員が参加した。「教科指導型日本語指導に基づく分かりやすい授業づくり」の講義、小・中の実践発表や情報交換会を行い、よりよい日本語指導に向けての刺激を得ることができた。

地域学習教室（KFC）に来ている子供たちがまだ充分に判断するスキルがないために生じる、いじめや差別発言などに遭遇した時に対応する術を、まずは大人が得ることを目的として、子供を見守る支援者のための人権研修会を実施。学んだことはいずれも実践として活かせることばかりで、「メディアから受けている影響を自覚し、自分も間違いを犯す可能性があることを認め、自分の中の偏見に対抗する必要がある。」という最後の締めくくりを皆心にとどめ、支援に生かしていってもらえる研修会となった。

子どもを見守る支援者のための人権研修会

今後の課題・将来に向けての展望等

昨年度、子供たちが学習する中で、アイデンティティの悩みやいじめの相談など、KFC の職員やボランティアが子供の悩みを聞くことがよくあったとの報告を受け、地域学習教室（KFC）では、そういった悩みを聞くだけではなく、子供が正当に対抗できる言葉や力をつけられるようなプログラムを検討していきたいと考える中で、まずは支援する側のエンパワーメントが必要だろうと人権研修会を開催した。次年度もこの研修会を継続し、さらに地域の状況を知ってもらえるようなフィールドワークを実施していくことで、支える側の理解を深めることやエンパワーメントを行い、課題を抱えさせられている子供に寄り添える人材育成に努めたい。そして、次に子供には、自分のことについて考えてもらえる機会や子供向けの人権研修会を実施したい。

新長田図書館司書による読み聞かせ

神戸市教育委員会としては、増え続ける新渡日の児童生徒の日本語指導のために、学校派遣のボランティア制度や放課後日本語教室、教職員への日本語指導研修、多文化共生教育研修を充実させていくことを考えている。

KFC の担う役割は大変大きいことを実感しており、プロジェクトの継続及び今回の KFC との連携の知見を活かし、他の NPO 団体ともしっかりとした連携を図っていけるように取組みを進めたい。

事業担当者のふりかえり

- ⇨ 昨年度課題となった子どもたちへの差別やいじめに対して、支援者側に子どもと向き合う力をもってもらえるようにと人権研修会を開催した。来年度は子供向けの人権研修を開催し、偏見に対してそれを鵜呑みにしないこと（抵抗感）につながるようにしたいと考えている。
- ⇨ ロールモデル事業で、先輩からの「日本語があまりわからない親からは情報が得られないから、自分がしっかりしないといけない」という話は、下の世代の中学生に非常に響き、熱心に話を聞く姿が印象的であったので、今後もこういった機会を増やしていきたい。